

| | | | |
|---|--|---|---|
| <p style="text-align: center;">Devotion Guide/ユースマナ</p> <h1 style="text-align: center;">Youth Manna</h1> <p>マルコ1:35 さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。</p> | <p style="text-align: right;">2022/9/19(月)</p> <h2 style="text-align: center;">エゼキエル8章</h2> <p>■エゼキエルが自分の家に座っていたとき、神である主の御手が彼の上に下った(1)。2節→エゼキエルは、主の姿をどんな風に記録しているかな？ ■ヘブル12:29→ヘブル人への手紙の著者は、主の姿を何と表現しているかな？</p> <p>北に面した内門の入り口に「ねたみ」という像が(3-5)、壁の穴を通り抜けて更に奥に進むと(8-9)、壁一面に偶像の彫刻が(10)、そしてタンムズのために泣く女達の姿(14)、主の神殿に背を向け、太陽を礼拝する人々(16)… 主は、偶像礼拝する者を徹底的に、また怒りをもってさばく神だということがわかる。私達の中にも、きっと心に穴があって、そこから更に進むと偶像で満ちている部分があるのかも知れない。でも、それを知るには聖霊によって探ってもらわなければならない(普通に過ごしていたら気づけない)。 ★祈ろう:エゼキエル書の通読の中で、自分が神様以外に信頼を置いている部分が見え、兄弟姉妹達と悔い改められますように。</p> | <p style="text-align: right;">2022/9/20(火)</p> <h2 style="text-align: center;">エゼキエル9章</h2> <p>ここには、前の章に表されていた神様の激しい憤りが、実際にエルサレムでなされる様子が幻で示されているよ。</p> <p>裁きが徹底的になされることと、罪を嘆き悲しんでいた人々が滅ぼされなかったことから、神様はどのようなお方だと言えるかな？</p> <p>神様の愛(慈しみ)と厳しさについて思い巡らそう。もし神様が全ての人が悔い改めて救われることを願っておられるとしたら(第二ペテロ3:9)、あなたがこの世界でなすべきことは何だろうか？今から出来ることはあるだろうか？</p> | <p style="text-align: right;">2022/9/21(水)</p> <h2 style="text-align: center;">エゼキエル10章</h2> <p>エルサレムへの厳しい裁きの後で、エゼキエルはケルビムの上の大空に「王座に似たもの」を見た。主は、亜麻布を着た人に炭火を都の上に撒き散らすよう命じられた(2)。炭火は、エルサレムに対する主の怒りを表している。</p> <p>次に、ケバル川のほとりでエゼキエルが見た生き物がケルビムであったことが記されている。ただ1章と10章の描写から、矛盾しない一つのイメージを再現することはほぼ不可能である。神について、「ケルビムの上に座しておられる」と表現されていることから、ケルビムの存在は、神の臨在、神の栄光と切り離すことができない。</p> <p>神へ反逆したエルサレムは、神の臨在と栄光を失い、滅ぼされることとなる。しかし神はイスラエルを見捨ててはいない。イスラエルを裁くときこそ、イスラエルの神であられる。</p> |
| <p style="text-align: right;">2022/9/22(木)</p> <h2 style="text-align: center;">エゼキエル11章</h2> <p>1～12節は、捕囚されずエルサレムに残された人たちへの裁きが、13～25節には、捕囚となっている人たちに告げられたことが書かれているよ。</p> <p>エルサレムから離れた異邦の地であっても、神様が共におられたこと(16)、そして捕囚の民に回復の計画があること(17～)が示されているね。</p> <p>捕囚から帰還する時に、彼らはまず悔い改めて神様を悲しませるような悪を取り除く必要があった(18)そして神様は彼らに新しい心を与え、真に神の民としてふさわしく生きるようにされるんだ(19,20)。</p> <p>神様の計画を生きるために、自分が変わらなければいけないところは何だろうか？聞き従う心を持って神様を求めよう！</p> | <p style="text-align: right;">2022/9/23(金)</p> <h2 style="text-align: center;">エゼキエル12章</h2> <p>▶BC597年のバビロン捕囚では、バビロンによって連れていかれた捕囚の民だけでなく、エルサレムに残された者もいた。捕囚の民は、連れ去られたにも関わらず、エルサレムはすぐに回復するだろうと楽観的に考えて安心していた。</p> <p>▶そんな民に対して主は、エルサレムに残された民も捕囚されること(1-16)、飢餓で苦しむこと(17-20)、楽観的な考え方が砕かれること(21-28)を告げる。イスラエルの民が、主を知るために、語られたことは必ず成就する。</p> <p>▶祈り：私たちにあなたのみこころを教えてください。御声を聞き分ける真実な心を与えてください。</p> | <p style="text-align: right;">2022/9/24(土)</p> <h2 style="text-align: center;">エゼキエル13章</h2> <p>ここでは預言者たちが神様から警告を受けているね。それは彼らの預言は自分の思い中心のものだったからなんだ。私達も神様のことばを聞いていても、いつのまにか自分中心になってしまうことってあるんじゃないかな？その後続く偶像や占いの影響を受けていた娘たちにも、神様の警告があり主の民が救い出されるとかいてあるね。</p> <p>神様が間違ったことを正す時、それをしていた人にとっては辛いことだけど、神様こそが主だって知ることができるよ、神様は間違いを見逃さない。そしてその先にある悔い改め、救いを通して私達はイエス様のもとへ立ち帰ることが許されているんだ。</p> <p>私たちが今日立ち帰るべきことはなんだろうか？</p> | <p style="text-align: right;">2022/9/25(日)</p> <h2 style="text-align: center;">エゼキエル14章</h2> <p>イスラエルの長老たちは偶像崇拜をしていることを隠して民のために神様のことばを求めて預言者のもとに行った。私達も、礼拝という公の場においても、神様がひとりひとりの心に関心を持っておられることを忘れてはならない。神様は、ご自分の民の心の中を知っておられ、罪があるなら、悔い改めに導こうとしている。人は神様の目を免れることはできないし、自分の罪を誰かのせいにすることもできない。神様の厳しいさばきを前にしてはノア、ダニエル、ヨブのような義人も、自分自身を救うことしかできない。しかし私達は、イエス様の義があつた三人の義を上回ることを知っている。そのイエス様が十字架で死んでくださったのは、御子を信じる者が滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。</p> <p>弱い私たちに、十字架の救いと信仰が備えられていることに感謝しよう。</p> |